

資材リスト①(馬鈴薯生産部会)【生食・加工・澱原】

令和3年度 JA帯広大正

【肥料】

肥料名	成分(%)	摘要
農配馬鈴薯1号	N-5.5 P-21.0 K-11.0 Mg-5.0	大豆粕入り
農配馬鈴薯2号	N-6.0 P-21.0 K-11.0 Mg-5.0	大豆粕、腐植酸入り
農配馬鈴薯4号	N-5.5 P-18.0 K-10.0 Mg-5.5	大豆粕入り
農配馬鈴薯5246	N-5.5 P-22.0 K- 4.5 Mg-6.3	大豆粕、マルチホート入り
農配汎用1号	N-7.0 P-20.0 K- 8.0 Mg-6.0	マルチホート、微量要素入り

【農薬】

害虫名 雑草名	農薬名 (有効成分名)	希釈倍数 10a薬量	使用薬量 (水100L)	使用時期 (収穫前)	使用 回数	系統名 有効成分名	
							ア
ア ○	ナ ○	ト ○	ビ ○	ハ ○	ム ○	シ ○	・ナスビハムシ…年1回の発生で、成虫態で防風林等の枯葉の下や、雑草の根際の地中浅いところで越冬します。5月下旬頃から活動を始め、6月中～下旬頃が発生最盛期になります。成虫の発生盛期に薬剤を散布しましょう。 ・アブラムシ類…ウイルス病の媒介虫として恐れられます。モモアブラムシの発生は7月以降となることが多いです。夏期には広範囲の作物で増殖しています。シヤガイモヒゲナガアブラムシは5月中旬頃に成虫となります。5月下旬～7月上旬頃に各種作物に移住します。ばれいしよでは7月中旬以降に有翅虫が現れ、無翅虫は8月下旬頃にはかなり減少します。ワタアブラムシの成虫は5月下旬～6月頃に見られ、ばれいしよでは7～9月に多くなります。必要に応じて防除を行い、一般圃からの有翅虫飛び出しを防止しましょう。
○							ジェイエース粒剤 3～6kg(作条散布) 植付時 1回 有機リン
○							アトマイター顆粒水和剤 5000～15000倍 20～6.6g 14日前まで 2回以内
○							モスピランSL液剤 2000～6000倍 50～16.6ml 7日前まで 3回以内 有機リン
○							アクトラ顆粒水溶剤 3000倍 33g 14日前まで 3回以内
○							ゲットアウトWDG 2000～3000倍 50～33g 7日前まで 4回以内
○							エンセガン乳剤 1500倍 66ml 7日前まで 6回以内
○							エルサン乳剤 1000～2000倍 100～50ml 14日前まで 2回以内
○							トクチオン乳剤 1000倍 100ml 14日前まで 3回以内
○							モヘントフロアブル 4000倍 25ml 7日前まで 3回以内
○							ウテラDF 2000～4000倍 50～25g 7日前まで 2回以内
○							コルト顆粒水和剤 4000～8000倍 25～12.5g 前日まで 3回以内
一年生雑草							ハスター液剤 (ダラホネート) 100～200ml 植付後萌芽直前 1回 非選択性茎葉処理型除草剤で、イネ科、広葉雑草を問わず、ほぼ全ての生育中の雑草に卓効を示す。
							ザクザ液剤 (ダラホネートPナトリウム塩) 100～200ml 萌芽前処理 1回 非選択性茎葉処理型除草剤で、光条件、温度条件、降雨条件等に関わらず、高い除草効果を発揮する。
							ロックス (Dニューロン) 100～200g 植付直後～萌芽前 1回 一年生雑草に対して非選択的に作用し、広葉雑草に卓効を示す。雑草発生直後の方が効果は安定する。
							ラクサー乳剤 (Dニューロン、アラクロール) 400～600ml 植付後萌芽前 1回 Dニューロンとアラクロールを混合した土壌処理除草剤で、ほとんどの畑地一年生雑草に高い効果を示す。
							ゴーゴーサン乳剤 (ヘンディメタリン) 200～300ml 植付後萌芽前 1回 土壌処理によりイネ科及び広葉の一年生雑草に幅広く効果を示す。但しキク科雑草とツクサには効果が劣る。
							モーティブ乳剤 (ベンディメタリン、ジメタナミトP) 200～400ml 植付後萌芽前 1回 ジメタナミトPとベンディメタリンを効率よく混用した土壌処理除草剤で、広い範囲の雑草に高い効果を示す。
							ボクサー (プロホルホカルブ) 400～500ml 植付後萌芽前 1回 ほとんどの畑地一年生雑草に有効であり、イネ科雑草から広葉雑草まで幅広い草種に効果を発揮する。
							センコル水和剤 (メトアジン) 100g 植付直後～萌芽期 1回 一年生雑草に高い効果があり残効が長い。メークイン等では葉害の発生を避けるため、萌芽前に使用する。
一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)						ナブ乳剤 150～200ml 雑草3～5葉期(前日まで) 2回以内 セトキジノム	
						200ml 雑草6～8葉期(前日まで)	
						ボルトフロアブル 200～300ml 雑草3～8葉期(前日まで) 1回 キザロニップエチル	
茎葉枯凋						デシガン乳剤 250～450ml 茎葉黄変期(3日前まで) 2回以内 ビラフルフェンエチル	

資材リスト②(馬鈴薯生産部会)【生食・加工・澱原】

令和3年度 JA帯広大正

【農薬】

病害名	農薬名	希釈倍数 10a薬量	使用薬量 (水100L)	使用時期 (収穫前)	使用回数	系統名
黒あざ病	モンカットフロアブル40	100~200倍	—	植付前	1回	SDHI
黒あし病、そうか病 粉状そうか病	アグレプト液剤	100倍	—	植付前	1回	グルコピラニル抗生物質
	フロンサイト [®] 粉剤	30~40kg(全面土壌混和)	—	植付前	1回	
粉状そうか病	フロンサイト [®] SC	400~600ml	—	植付前	1回	他合成
	フロンサイト [®] 水和剤	600g	—	植付前	1回	
	オラカル顆粒水和剤	250g	—	植付前	1回	Qil
疫病 塊茎腐敗 夏疫病 菌核病 軟腐病	<p>・疫病(塊茎腐敗)…茎葉における発病は着蕾期~開花始期頃です。病原菌の活動には気温と湿度の影響が大きく、10℃を超える活動を始め、18~20℃が最適温度です。降雨により多湿になると急速に蔓延します。開花期以降に多発するので、予防的に薬剤散布を行いましょ。収穫後に罹病茎葉が残っている場合、ここで作られた孢子が地表に落ち、新塊茎への感染源(塊茎腐敗)となるので除去しましょ。</p> <p>・軟腐病…茎葉部での発生は、7~8月が高温多湿に経過する年に多く、倒伏した圃場で発生被害が多くなります。塊茎では、高温多湿な条件で皮目、傷口から本病菌が侵入して腐敗させますが、雨水が停滞した場合に激しくなります。病原細菌の生育適温は25~30℃です。施肥は標準施用量とし、茎葉の過繁茂、倒伏を防止しましょ。茎葉部の薬剤防除は、接地葉の発病初期から行いましょ。</p>					
○	ゾーベック エンカンティア	2000倍	50ml	14日前まで	2回以内	ヒメジニル/アゾール/アキリクリン、Qol
○	カビナイSPZ水和剤	600~800倍	166~125g	7日前まで	4回以内	シアニトアミド-オキシム、ジチオカーバメート
○	エキナイン顆粒水和剤	2000~3000倍	50~33g	7日前まで	4回以内	シアニトアミド-オキシム、CAA
○	ダイナモ顆粒水和剤	2000~3000倍	50~33g	7日前まで	4回以内	シアニトアミド-オキシム、Qil
○	サンプロDMフロアブル	1000~1500倍	100~66ml	前日まで	3回以内	QoSI, CAA
○	ランマンフロアブル	1000~2000倍	100~50ml	7日前まで	4回以内	Qil
○	ライメイフロアブル	2000~3000倍	50~33ml	7日前まで	4回以内	
○	リイアブルフロアブル	800~1000倍	125~100ml	7日前まで	3回以内	ベンズアミド、カーバメート
○	レーバースフロアブル	1500~2000倍	66~50ml	7日前まで	2回以内	CAA
○	プロボース顆粒水和剤	750~1000倍	133~100g	7日前まで	5回以内	CAA、クロロニル
○	フロンサイト [®] SC	1000~2000倍 1000倍 2000倍	100~50ml 100ml 50ml	7日前まで	4回以内	他合成
○	フロンサイト [®] 水和剤	1000~2000倍 2000倍	100~50g 50g	14日前まで	4回以内	
○	ホライズンドライフロアブル	1000~2500倍 1500倍	100~40g 66g	14日前まで	4回以内	シアニトアミド-オキシム、Qol
○	グリーンダイセンM水和剤	400~600倍	250~166g	7日前まで	10回以内	ジチオカーバメート
○	グリーンハンコゼア水和剤	400~600倍	250~166g	7日前まで	10回以内	
○	トップゾンM水和剤	1000~1500倍	100~66g	7日前まで	5回以内	MBC
○	アジトールフロアブル	500倍	200ml	—	—	無機化合物
○	コサト [®] 3000	1000倍	100g	—	—	
○	カスミンボルト [®]	800倍 500~800倍	125g 200~125g	7日前まで	3回以内	ヘキシピラニル抗生物質、無機化合物
○	カッパー-シン水和剤	800倍 500~800倍	125g 200~125g	7日前まで	3回以内	
○	アクリマイシン-100	1000倍 1000~1600倍	100g 100~62g	3日前まで	5回以内	グルコピラニル抗生物質、テトラサイクリン抗生物質
○	銅ストマイ水和剤	600~800倍	166~125g	7日前まで	5回以内	グルコピラニル抗生物質、無機化合物
○	バクテサイト [®] 水和剤	750~1000倍	133~100g	7日前まで	5回以内	グルコピラニル抗生物質、テトラサイクリン抗生物質、無機化合物
○	マテリナ水和剤	1000倍	100g	7日前まで	3回以内	グルコピラニル抗生物質、カルボン酸
○	アグレプト液剤	1000~2000倍	100~50ml	7日前まで	5回以内	グルコピラニル抗生物質
○	バクシン液剤5	500倍	200ml	3日前まで	6回以内	グルコピラニル抗生物質
○	スターナ水和剤	1000倍	100g	7日前まで	5回以内	カルボン酸
○	マスタピース水和剤	1000~2000倍	100~50g	前日まで	—	
○	ハイキーパー [®] 水和剤	1000~2000倍	100~50g	発病前~ 発病初期	—	生物農薬